

互いの良さを認め 高め合う よりよい集団の育成

日置市立伊集院北小学校

1 研究のねらい

本校の児童には、望ましい人間関係や集団の形成や言葉での合意形成、規範意識などに課題が見られた。そこで「人との関わり」「認め合い」「より良い集団づくり」に大きく関連する「特別活動」を研究領域とし、課題の改善を図る。

2 研究の概要

《目指す児童の姿》

個や集団の向上のために、自分のできることを進んで考え、実践できる児童

多様な集団活動を通して、他者の考えや行動のよさに気づき、伝え合える児童

合意形成を図るための、話し合いの手順や方法を身に付けている児童

1年目：「学級活動の充実を目指して」

学級会を中心に話し合いの環境づくりや個の育成を図る。

2年目：「学級活動を中心とした仲間づくり」

学級活動(2)(3)を中心に学級の仲間づくりを行う。

3年目：「特別活動を通じた全校的な仲間づくり」

児童会活動を中心に仲間づくりを学校全体に広げる。

3 研究の内容

(1) 話し合い活動の充実を図る手立てや工夫【視点1】

ア 導入の工夫 イ 場の工夫 ウ 振り返りの工夫 エ 評価の工夫
オ 合意形成を図るための手立て

(2) 支持的風土を育む集団づくり【視点2】

ア 具体的な目標の設定と活用 イ 実態調査の実施と活用 ウ 効果的な体験の活用
エ 道徳教育・人権教育との関連 オ 「特別活動」コーナーの設置

4 研究の実際

(1) 指導と評価の一体化

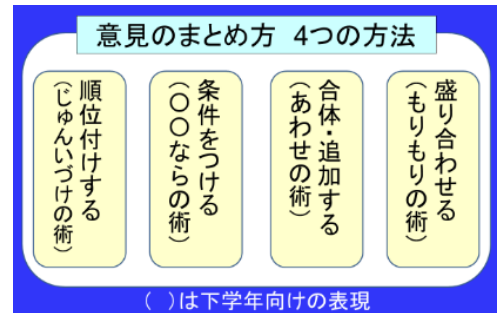
ア 国立教育政策研究所発行『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考に本校の評価の観点を設定し、評価規準を本校の目指す児童像に合わせて自校化した。
イ 教師による評価のための見取りシートを観点ごとに学期に一枚作成し活用するようにした。
ウ 児童は、学級活動シートを活用して自己評価を行い、学級活動ファイルに綴り、次の学年へ持ち上がることで自己の成長を振り返られるようにした。

(2) 全教科を通じた取組

ア お互いの良さを認め合うための手立てとして、発表者には、「確認」や「問いかけ」を使った発表の仕方を指導し、聞き手には「反応」をするように指導した。
イ 各学級には、児童会活動と学級活動の関連を意識付けられるように配置の工夫を行った学級活動コーナーを設置した。

(3) 学級活動(1)の取組

児童が主体的に話し合う姿や、友達の考えを共感的にとらえ、折り合いをつけながら合意形成を図る姿を目指し、板書の工夫や多様な意見のまとめ方の指導を行った。



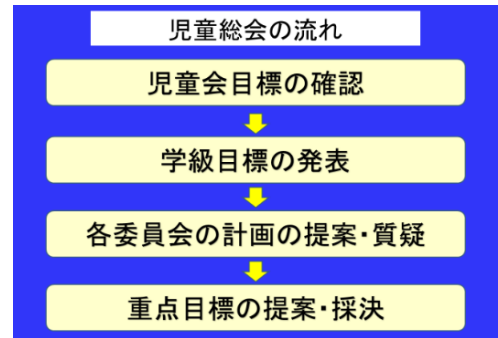
(4) 学級活動(2)(3)の取組

それぞれの学習過程での活動を整理し、「課題解決のための活動」で、アクティビティや体験活動を行い自分の現状や課題を実感させた。そして、実感を伴った考えのもとに「解決方法の話し合い」を行うことで、自分のことをより詳しく伝えたり、相手の考えを共感的に受け止めたりできるようにした。



(5) 児童会活動を中心とした取組

児童会組織図を作成し、各活動の役割と関連を可視化した。また、児童総会では、役割を果たし関連していくことが児童会目標の達成へとつながっていくことを実感できるように運営した。



5 研究のまとめ

(1) 成果

- ・ 学校全体でよりよい集団づくりを進めてきた結果、児童アンケートで「学校が楽しくない」と答えた児童が令和2年度では約10%であったが、令和3年度は0%が続いている。
- ・ 話し合いのスキルが身に付き、進んで話し合い活動に参加しようとする児童が増えてきた。
- ・ 友達の発言の内容をしっかりと聞く姿が見られるようになった。
- ・ 特別活動コーナーを設定し意識付けることで、良い集団の育成に役立てることができた。

(2) 課題

- ・ 不安を抱えている児童に対して、励まし支え合える関係づくりを丁寧に行っていく。
- ・ 学級会の開催を定着させ、児童が自信をもって考えを伝え合えるようにしていく。
- ・ 課題を自分のこととして捉え、話し合いによって自己解決することができるようにしていく。

6 今後の取組

本研究により、各学年の学級活動や児童会活動の実践を蓄積することができた。今後は、「よりよい集団づくり」を児童が主体的に行っていくように、本研究での実践を定着させていきたい。